

## 令和5年度「NPO・ボランティアと企業、行政との協働実践会議」 議事録

(注) 議事録の文章は、読みやすいよう発言の趣旨を損なわない程度に整理したものです。

### ■日時

令和5年5月26日(金) 13:00～14:30

### ■場所

福岡県吉塚合同庁舎7階 特6会議室

### ■出席委員

◎石原委員、○鳥丸委員、林田委員、松永委員、東委員（代理：宮野原氏）、辻委員（代理：矢野氏）、堀江委員、桑原委員、永田委員、大鶴委員、小林委員  
（◎…委員長、○副委員長）

～会議内容～

### 【進行役】

はじめに、本日の会議の公開についてご説明いたします。

お手元の付属資料4枚目、「NPO・ボランティアと企業、行政との協働実践会議の公開又は非公開に関する規程」を御覧ください。

規程2（1）で実践会議は、検討状況を明らかにすることにより、会議運営の透明性の向上を図り、会議に対する県民の理解と信頼を深めるという観点から、会議の公開に努めることとしております。

なお、規程の2（2）にありますとおり、個人情報のほか、法人やその他の団体の競争上の地位その他正当な利益を害すると認められる場合などは、会議を「非公開」とすることができることを定めております。

本日の会議につきましては、そのような事項には特段該当しないと思われまので、公開で行いたいと考えております。

議事に先立ちまして、委員長から御挨拶をいただきたいと思ひます。

委員長、よろしくお願ひいたします。

### 【委員長】

本日は御出席ありがとうございます。

さて、5月8日に新型コロナウイルス感染症が5類感染症に変更されました。そのことで、様相も変わってまいりまして、社会経済活動も活発になってまいりまし

た。

そうした中で、県においても、NPO・ボランティアセンターをコラボレーション福岡として、もっと広くみんなで協力しようと、そういったことについて、皆さま方の経験を踏まえたご意見をお伺いしたいと思います。

事務局からNPO・ボランティアセンターの見直しや、県事業の概要、今後の施策の方向性について説明をしていただきます。

その上で、今後、多様な主体による協働を促進していくために、どういったことが必要なのか。皆さんそれぞれの立場から、ご発言いただくということにしています。

本日の会議での熱心な御議論をお願いして、私からのご挨拶といたします。

#### 【進行役】

ありがとうございました。それでは、これからの議事進行につきましては、委員長をお願いしたいと思います。

委員長、よろしく願いいたします。

#### 【委員長】

それでは、議事に入ります。議題（1）「NPO・ボランティアセンターの見直しについて」、事務局から説明をお願いします。

#### 【事務局】

NPO・ボランティアセンターの機能等について、見直しを行いましたので、その概要について、ご説明いたします。

資料1をお願いいたします。

まず、センターの変遷についてでございます。

平成12年に、ボランティア団体の活動を支援する拠点として、「県民ボランティア総合センター」を公設民営で春日市に設置いたしました。その後、NPO法人が急増したことを受けまして、平成16年に「福岡県NPO・ボランティア支援センター」と名称を変更し、NPOへの支援を強化いたしました。

平成18年4月には、名称を「福岡県NPO・ボランティアセンター」と変更するとともに、吉塚に移転いたしまして、公設公営で、NPO法人の設立から設立後の運営支援、協働支援までをワンストップで行ってまいりました。

この間、NPO活動を支援する市や町のセンターは、平成18年には9か所だったものが、現在では27か所になるなど、NPOのみなさんが、活動拠点により近い場所で支援を受ける環境が整ってきたといえます。

また、委員の皆様にご協力をいただきながら、NPOと行政や企業との協働促進に取り組みまして、コロナ禍での減少を除きまして、協働件数は着実に増加しております。

一方で、災害の頻発やコロナ禍など、ますます複雑・多様化する社会課題を解決するためには、NPOに加えて、企業、教育機関など多様な主体が互いに協力し合う共助社会づくりを推進する必要があるため、NPO・ボランティアセンターを多様な主体間の協働を促進する拠点として、リニューアルしたところがございます。

見直しの内容についてでございますが、名称を「コラボステーション福岡」と改めまして、県庁舎の1階に移転をいたしました。

NPOの活動支援として行っておりました会議室や印刷機器の利用提供につきましては、オンライン会議の普及ですとか、市町センターの増加などによって利用者が減少している状況を踏まえまして廃止をいたしました。NPO法人の設立や運営支援については、継続して行ってまいります。

また、共助社会の実現を目指し、NPO、企業、行政、大学など、多様な主体間の協働促進の取組を行っていく予定でございます。説明は以上でございます。

#### 【委員長】

ありがとうございました。

続きまして、「議題(2) 令和4年度県事業の概要について」に入ります。事務局から説明をお願いします。

#### 【事務局】

それでは、続きまして、昨年度の県事業の概要について、ご説明をいたします。資料2をお願いいたします。

1ページをご覧ください。

本会議において令和4年3月に改訂をいたしました「NPO・ボランティアと企業、行政との協働実践指針」において示された協働実践における3つの方策の柱に沿ってご説明をいたします。

まず、1つ目の柱「協働推進に対する理解の促進」でございます。

NPO・ボランティアセンター、現在はコラボステーション福岡となっておりますが、そのホームページ運営、メールマガジンの配信などによる情報発信に引き続き取り組んでおります。

また、NPOと企業、行政等による優れた協働の取組を表彰する、ふくおか共助社会づくり表彰では、令和4年度は、3件8団体の取組を表彰いたしまして、受賞した取組を優良事例として紹介しております。いずれの取組もNPO、行政、企業などがそれぞれの専門性やネットワークを活かしながら活動されています。なお、受賞した取組の詳細につきましては、後ほど、お配りしておりますパンフレットをご覧ください。

2ページをご覧ください。

行政職員向け研修の実施や、地域における協働推進のため、市町村のNPO・ボランティアセンター連絡会の開催と市町村へのアドバイザー派遣を実施いたしま

して、協働推進に対する理解の促進に努めております。

2つ目の柱「交流機会の創造」でございます。

NPOと企業の交流促進については、経済団体との連携による協働の推進として、毎年、福岡経済同友会との共催で、NPOとの協働の意義や可能性について発信する社会貢献セミナーを開催しております。令和元年度からは、子どもの貧困をテーマに実施してございまして、子どもの支援に取り組むNPOに活動内容や企業との協働事例を紹介していただきました。セミナーを契機としまして、企業からNPOへ物資の提供が行われるなど、協働事例が生まれております。

また、企業の実務者向けオープンセミナーでは、企業のCSR担当者等実務者向けにNPOからの協働企画提案を実施しています。

3ページをご覧ください。

NPOと行政との協働では、そこに記載しております表のとおり、NPOと県との協働件数は、令和2年度に新型コロナウイルス感染症の影響を受けまして、イベントの中止や活動の縮小を余儀なくされたケースも多く、激減しておりますが、令和3年度には回復傾向が見られております。今後の回復が期待されます。

また、県では行政と企業との協働として、企業との包括提携協定に基づく取組を進めております。現在、31社の企業と協定を締結し、具体的な取組を進めているところです。

3つ目の柱「自立と発展に向けたNPOの活動基盤強化」でございます。

NPO法人やボランティア団体の運営相談、NPO法人の会計・税務相談などを実施し、活動基盤強化を支援しております。

コロナ禍に際しましては、NPOとの協働により、新たにインターネット会議ツールを活用したオンライン相談や電話による相談も行っております。

4ページをご覧ください。

多様な主体による協働の取組に対する支援としまして、ふくおか地域貢献活動サポート事業では、企業等からいただいた寄附金を活用し、NPOが企業等と協働して課題解決に取り組む事業に対し、経費を助成しております。令和4年度は1,000万円余の寄附金を受け入れ、12件の取組に助成を行いました。

なお、採択された取組内容につきましては、お配りしております福岡県共助社会づくり基金ニュースを後ほどご覧ください。

5ページをご覧ください。

このページから8ページまでは、参考資料といたしまして、「ふくおか地域貢献活動サポート事業の採択一覧」、「県内NPO法人数」、「財政状況及び協働件数等の推移」などを掲載しております。

説明は以上になります。

## 【委員長】

ありがとうございました。

続きまして、「議題(3) 協働支援対象拡大に伴う事業の見直しについて」に入ります。

このテーマについては、皆様からのご意見をいただきたいと考えております。まず、県の取組について事務局から説明をお願いします。

#### 【事務局】

それでは、資料3のA3の資料でご説明させていただきます。

資料3につきましては、令和4年度のところには、先ほど説明しました令和4年度の事業が、変更点があるものについて令和5年度のところに記載しているというものでございます。

先ほどご説明しましたとおり、県におきましては、社会課題が複雑化、多様化するなかで、NPOに限らず、様々な主体が社会課題の解決に向けて取り組み、また関心を寄せていただいているということを受けまして、より多様な主体による協働を推進すべく、先ほどご説明しました「NPO・ボランティアセンター」の見直しなど、今年度から県の取組についても、事業の見直しを行っております。

協働実践指針における3つの方策の柱に沿って県の取組の変更点をまとめております。

まず、1つ目、「協働推進に対する理解の促進」でございます。

「ふくおか共助社会づくり表彰」の表彰の対象につきましては、これまではNPOが主体となる取組に限定しておりましたが、今年度からは、取組の主体を限定せず、より幅広い取組を表彰することとし、その表彰した内容を情報発信することによりまして、多様な主体の社会貢献活動への波及につなげてまいります。

また、福岡県NPO・ボランティアセンターのホームページにおきましては、NPO支援や協働の取組について情報発信を行ってまいりましたが、今年度、このサイトのリニューアルを行います。協働の主体が自らの協働事例を投稿できる機能や協働相手を探す際により条件に近い相手をおすすめ表示する機能などを新たに設けまして、NPOを中心としたサイトから多様な主体に協働への参画を促進するサイトに刷新する予定としております。

次に、2つ目の「交流機会の創造」についてです。

これまで、企業とNPOの協働を促進することを目的に2つのセミナーを行ってまいりました。

1つ目は、先ほどご説明しましたが、福岡経済同友会さんと連携で行うセミナーで、主に企業の経営者に向けて、企業とNPOの協働の重要性について理解を深める機会を提供してきました。

2つ目は企業のCSR担当者の方に向けたセミナーで、NPOから企業への協働提案の機会を提供し、協働に関心のある企業とのマッチングを支援してまいりました。

これを、今年度からは、経済団体さんとの連携セミナーは継続しつつ、新たに、

企業とNPOに限らず、対象を拡大して交流機会の創造を図ってまいります。

セミナーの変更の1つ目は、多様な主体を対象としたセミナーの開催になります。

NPOや企業のみならず、行政、大学などの多様な主体を集めまして、共助社会のあり方やそれぞれに期待される役割、協働による課題解決について基本的事項を広く学ぶ機会とします。また、それとともに参加主体の交流を図るセミナーを実施する予定です。

加えまして、より具体的に関心をもっていただいている主体に対しましては、先進的な社会貢献活動の現場の視察や、テーマを設定したグループワークを行うことで、協働の可能性を検討し、新たな協働の取組創出を図ります。

次に、3つ目、「自立と発展に向けたNPOの活動基盤強化」についてです。

NPO法人の設立や運営に関する相談対応や個別支援については、これまで同様に取り組んでまいります。

また、企業等から寄附を受け付け、協働による地域課題解決の取組に助成してきましたふくおか地域貢献活動サポート事業につきましては、これまでNPOを主とする協働の取組に限定して助成をしておりましたが、今年度から、NPOの参画を必須としないかたちに改めまして、4月に募集を行ったところです。より多様な主体の協働の取組につなげてまいります。

県の取組の変更点についての説明は以上になります。

委員の皆様におかれましては、県の取組に対するご意見、アドバイスのほか、それぞれのお立場から見て、今後、協働を促進していくためにはどういった取組が必要かといったご意見や、現在実践されております取組事例がございましたら、事例の共有など、多様な主体による協働促進に向けたご意見を頂戴できればと存じます。

どうぞよろしく願いいたします。

#### 【委員長】

ありがとうございました。今の説明について、ご質問はありますか。

#### 【A委員】

協働推進に関する理解の促進であったり、自立と発展に向けたNPOの活動基盤強化のところで、表彰対象拡充というところがあったりされるんですが、今までどのくらいの数、御応募があって、今後、拡充することによってどれくらい広がっていくかというお考えか教えていただければ。

#### 【事務局】

令和4年度の表彰につきましては、9件の取組の応募があり、3件表彰しております。対象を広げることで、どの程度広がるのか予想ができていないところですが、受賞団体自体はそれほど大きく増やす予定はないです。同じくらいの受賞団体を想定しております。

**【委員長】**

受賞した団体には副賞があるんですか。

**【事務局】**

副賞はございません。

**【委員長】**

表彰状と記念品みたいな。それなら、数を考えなくて、良ければどんどん出したらいいのにと思いますが。予算の関係がないなら。

**【事務局】**

副賞として楯をお渡しして、その予算はありますが。いい取組があれば、表彰してまいります。

**【B委員】**

表彰を受けた後、その団体は、表彰することによってどうなっていったか、事例があったら教えていただきたいと思います。

**【事務局】**

表彰を受けた方は情報発信をしておりますので、新たな企業との繋がりなどそういった効果があるかと思いますが、実績は持ち合わせておりませんので、調べましてご報告させていただきます。

**【B委員】**

表彰しっぱなしではなくて、そのあとをおって、こういう展開になりましたというのがあると応募する側もこういう効果があるんだなというところで期待が膨らむんじゃないかなと思ったので。

**【委員長】**

非常にいいご意見なので。表彰されたら社会的に認めてもらいたいですよ、みんな。そこはなにかないのでしょうか。バッチをあげるとか。

**【事務局】**

今のところやっておりませんが、確かにおっしゃられるように表彰を受けた後、どう展開したのかというところの発信と何か証みたいなもの、そういうものがないか。

**【B委員】**

そういうのもあると嬉しいですし、表彰を受けることによってどこかの企業とコラボが出来ましたよとか、今の事業がより深みが出ましたよというのが見える方がいいかなと思います。勿体ないなと思って。

**【事務局】**

今のところ後追いが出来ておりませんので、そこはしっかり、今回を契機に後追いをして発信をするということを取り組んで参りたいと思います。ありがとうございます。

**【委員長】**

他にいかがですか。

**【C委員】**

交流機会の創出というところになるんですが、新規のところ、テーマを設定し関心のある主体を集めて開催とあります。テーマを子どもの貧困ということでマッチングをされたと思うんですが、今回は新規ということでどういうところが違うのか。テーマがいくつもあるのか。回数が増えるのか、何回くらいを想定しているのか。この新規に対する期待を教えてくださいなと思います。

**【事務局】**

NPOに限らず、多様な主体を対象としたセミナーを行いまして、関心を持っていただいた団体に現場視察とグループワークを1回ずつ、実施を検討しております。

現場視察については、収益ですとか、寄附の額によって、持続可能なかたちになっているような、モデルケースとなるような取組を紹介できればと検討しております。具体的にはまだ決定しておりません。

グループワークのテーマについても、どのようなテーマが議論がしやすく、協働につながりやすいのか、中間支援団体等の意見を聞きながら、設定をしていきたいと考えております。

**【委員長】**

他にいかがですか。

**【D委員】**

2点あります。表彰のところ、表彰とか事例発表はわりとうまくいったところを広げましょうということで、それはとても大事ですが、一方で、課題とか、こういうことを悩んでいますということ共有することで、自分達と同じ悩みを抱えているところがやっているんだということが広がると、わりとトッランナー的な

ところを拡大していく手もあるでしょうし、ボトムから拡大していくという手もあると思うので、そういう機会が、もしかしたら①でなくて、②のところかもしれませんが、悩み、課題の共有みたいなものがあるとさらに裾野が広がるかなというのが1つ目です。

それから、全体的な話で、今年度の県の事業①から③まで非常に重要で、これを続けていただくのはとてもいいかなと思います。一步引いてみた時に、中間支援機能として、県としてどこが強くて、どこの部分に重点を充てているのかというところを整理したほうが良いと思うんですね。民間でも中間支援をやっているNPOや社団が増えてきているので、県の支援事業と、民間の支援事業を、協働するのか、分担するのか、つなぐのか、みたいな視点があるといいと思います。全部県がやる必要はないので、一步引いて、県としてはどこをやるのか、地域にどういう資源があるのかというのを少し整理していいかなという気がしました。以上2点です。

#### 【事務局】

ありがとうございます。確かに、中間支援の組織が出てきておまして、そこと県との役割分担をするのか協働するのかという部分も含めて、県の事業もどこに重点をおくのかというのを考えていく必要があると思います。そういったところも今日、お集まりの皆さま方にもご意見を伺えればと思っております。

課題、悩みを共有する場というの必要なのかなと思いますので、表彰だとトップランナーのところになりますので、セミナーの中でそういった課題の共有を図っていくことを検討したいと思います。

#### 【委員長】

そういうところに視点をおいてやったらいいと思います。他にいかがですか。

#### 【E委員】

九州経済連合会の私のところは、幸せコミュニティづくりという大きなテーマを掲げておまして、それに向かって様々な目標と課題を設定して色々な事業活動に取り組んでいるんですが、その中で、今年度から地域創生を具体的に課題解決手法を我々職員が理解して、そういったことを踏まえて現場から解決していこうという動きをしています。地域の現場を手厚く見ていったうえで九州の経済を発展させていこうという、それによって幸せコミュニティができるという考えで進めていく。是非、同友会さんのように、九経連とも会員企業との交流を、こういった面から実践的に取り組まれている団体のご紹介などをやっていただいて、企業にも利用いただくと、我々も勉強になりますし、お役に立てることもあるかと思っております。どうぞよろしく申し上げます。

#### 【事務局】

ありがとうございます。我々も多様な主体ということで、いろんな主体に広げますとは言いながら、どうアプローチしていくのかとか、どうやって我々のやろうとしていることに御参加いただくのかといったところが大きな課題になっておりますので、心強い言葉をかけていただきましたので、是非よろしくお願ひしたいと思ひます。

#### 【委員長】

九経連、同友会、そういった組織があるんだったら、そこに相談して、紹介してくださいとか、そういうのはあるでしょうね。

それでは、F委員いかがですか。

#### 【F委員】

一点目は報告になりますが、県の方の寄附事業におけるところの災害支援枠の方は注目させていただいていたところがございます。特にこちらのパンフレットでいきましたら、16ページの朝倉、連続して災害が起きたというのがございますが、非常に住民の皆さんの関心、防災意識が高まっております、これは確か杷木地区を中心にやられていたかと思ひますが、明後日の日曜日、県の防災訓練が朝倉市と東峰村で開催されるようになっております。特に朝倉地区というのは、十文字中学校というところで、災害ボランティアの訓練を行うようになっております。非常に住民の方の参加も増えたり、社協だけということではなくて、公民館に携わる方とか、いろんな方々が熱心に、この基金で啓発いただいたおかげで、更に発展につなげておりますし、めくっていただいて17、18は、同じく災害が連続している大牟田市の方に基金の支援をいただいているかと思ひますが、これの翌週の土曜、日曜にかけて、大牟田市の方でも大々的な訓練を行うようにしております。こういったところで被害を過去受けた地域の災害ボランティアの活動というのが先頭になって防災意識を高めていただいております。そういったことに活用させていただいております。

質問に関しては、寄附金の令和4年度の、企業様からかなり1千万円を超える寄附をいただいておりますけども、自由提案型6事業、テーマ型3事業2つ、単年度いただいた寄附をそのまま割り当てるような感じになるんでしょうかね。申請団体も応募15に対して採択12とありますが、審査委員会があるんだろうと思ひんですが、単年度1千万円の寄附に対する支援する金額が出ていなかったかと思ひますので、入りと出のバランスを教えていただければと思ひております。

#### 【事務局】

企業様から御寄附をいただきまして、それを基金として積み立てをしております、応募いただいた申請内容を、外部委員を含めました基金運営委員会で審査を行って採択を決定しております。1件50万円を限度に助成をしておりますので、い

ただいた御寄附をすべてということではありません。もし余れば、繰り越しということになります。

**【委員長】**

他にありませんか。

**【D委員】**

ボランティアセンターの見直しのところで一つだけ教えていただきたいのですが、見直しをされること自体はとてもいいことだと思います。時代の変化に合わせて変えていただいて。見直しの中身で、人の点で言うと、そこにいるスタッフの方が協働促進するようなコーディネーターの経験がある方、要するに、企業の言葉もわかるし、NPOの言葉もわかるし、通訳ができるみたいな、そういう人がいた方が協働って進むと思いますが、人の手当てみたいなのところはいかがでしょうか。人件費がかかるので大変だと思うんですけども。

**【事務局】**

基本的に県の職員が業務にあたっておりますので、そういうコーディネートをするノウハウ等の蓄積ができておりませんで、そこが弱いところだと思っております。

**【D委員】**

それこそ協働が進められればいいなあという気がしております。どうしてもNPOの人が行って、行政の言葉で言われてもわかりませんか、企業の人が行っても、NPOと感覚違いますとか、色々あって、お互いのバックグラウンドを知るとわかるんだけど、表面的だとなんでやってくれないのという話になっちゃうので、そこをうまくつかむ人がいると、このセンターも、さらに機能強化につながるんじゃないかなという気がします。

**【委員長】**

大学の学生でそういうのが好きな人とか、そういう方はいませんか。

**【D委員】**

時間があれば私がやるんですが。なかなか難しいですよ。NPOの方を週に2回、交代でいていただくとか、企業との協働の経験がある方とか。外部の資源を使うというのはありかなと思いますね。

**【C委員】**

やっぱり、職員の方は異動があるので、それを求めるのは酷だと思います。その場で即答できなくても、うまくそこでコーディネートできるような仕組みがあれば、

マニュアルなのかわからないですけれども、できるんじゃないかなと思ったことと、コラボステーション福岡という存在を活用した、私たちNPOは交流機会の創出をすごく求めているんですね。そういうのを充実させるような活動につなげていただくと嬉しいなと思いました。

さっきから気になっているのが、セミナーの開催、新しいところなんですけれども、年に1回、子どもの貧困というテーマでやるとすると、子どもの貧困以外のNPO、興味がある企業がそこには参加できないんだったら、1年に1回の機会を失ってしまうというのがすごく残念に思うので、予算の関係とかもあるんですけど、大きな新規の事業は年に1回ずつかもしれないんですけど、もっと小さな小回りの利くようなマッチングができるような機会の創出をコラボステーション福岡さんが仕組みの中で入れこんで頂いたらうれしいなと思って聞いておりました。

#### 【委員長】

一番大事な肝のところなので、そういったことをやってくれる意欲のある人、そういうのはどうやって見つけるのでしょうか。

#### 【C委員】

私たちも協働をすごくしたいと思っていて、去年から動いて、西部ガスさんとの協働が宗像市の方で始まりました。どうにかしてマッチングしたいと思っていても、自分たちの力でマッチング先を決めていくしかなくて、西部ガスさんもそうでしたし、私たちもそうで、たまたま、知り合いの知り合いの知り合いでたどり着いたかたちなのですが、それをこちらの方でできるような。仕組みでどうにかならないですかね。人がいないと難しいですもんね。どうしたらいいでしょう。

#### 【D委員】

北九州の場合だと、日替わりでNPOの代表の方が相談員として、相談員の方と行政の方が一緒に、NPOさんに行かれるというのがあります。そういうのも一つかなと。そうすると、どうしてもNPO寄りになってしまうので、なかなか、企業との協働とか、大学との協働とか、そこまで視野はなかなか広がってないみたいですけど、地域活動とか、市民活動とかの相談は、そっちの方がすごくやりやすいみたいな話はしていました。

#### 【G委員】

私たちが一つコロナで学んだことは、実際に会わなくてもウェブ上で会議が出来たり、人とつながることができたり、つまり、コラボステーションの中で、ウェブ上で、こんなことができます、こんなことを求めていますというような生の情報が行きかうような場、語り場みたいなものがあれば、実はこんなことをやりたいと思っています、こんなことでお力をいただけませんかみたいなことを、一緒になれる

ような場が一つできれば、うまくマッチングできるんじゃないかな。

つなぐ力はこれからものすごく求められると思うんですけど、実はやりたい方って結構いらっしゃるんですよ。人生100年時代って言いながらも60過ぎたらもう来なくていいですよって言われた男性たちが、頼まれたらやってやろうと、お金じゃないんだよ、やりがいなんだよみたいな方々がたくさんいらっしゃるんで、そういう方々のお力を、知恵をお借りするとか、そういうのを、一つ大きな語り場をお作りになって、ウェブ上で広場が出来たらいいのかなと、今、思っております。

#### 【事務局】

ありがとうございました。今年度、ホームページのリニューアルをする予定でございます。いただいたご意見を参考にリニューアルしていきたいと思っております。

#### 【委員長】

小林部長いかがでしょうか。

#### 【小林委員】

色々なご意見をいただきまして、ありがとうございます。行政としては、リソースの問題等がありまして、本当に悩ましいと思いつながら、聞かせていただいております。ウェブ上で、やりたいという意欲のある方と求めている方とマッチングできるような場ができればというご意見かと思っております。今事務局の方からもありましたけれども、今度ホームページをリニューアルするようにしてございまして、そのホームページの中で協働のマッチング機能を持たせたいと考えております。これから設計しますので、その中で、やりたい人、求めている方たちがうまく出会えるような、そういった機会を作っていければなと思っておりますので、そういった機能も皆さんのご意見をお聞かせいただければと思っております。

それと、先ほどの九経連の方、同友会さん、私共もこれからセミナー等やって参りますので、情報提供のご協力をお願いしたいということと、もう一つ、協働の主体を広げていきたいと考えていますが、NPOさんに関しては、どういった方がおられるというのはある程度把握はしているんですが、企業さん、大学の方などは情報をあまり持ち合わせておりませんので、どういった方にどうかたちで情報をお届けしたらちゃんと届くのかよくわからない部分がありますので、皆様のお知恵を是非ともいただければと思っております。よろしく申し上げます。

#### 【委員長】

D委員、いかがですか。

#### 【D委員】

大学は外から見ると敷居も高いし、どの先生が何やっているかもよくわからない、

大学は一生懸命情報発信しているつもりなんですけれども、難しいだろうなという気がします。そこは芋づる式につかまえるのが一番確実かなという気がします。北九州市立大学であれば、私に言っていただければ。

もう一つは、学生ですね。学生を入れることで意外と企業、NPO両方寄ってくるみたいなこともありますので、学生を活用するというのは、大学の活用の一つの方策としては非常にいいかなという気がします。大学としても、学生の教育になりますよと言われると、意外と出しやすいという。一つ気を付けないといけないのが、時々依頼が来て、よく見ると学生を無償の労働力としか見ていないみたいなことがあるので、そうすると大学としてはむっとするので、そこだけ気を付けていただければ、大学は結構乗ってくるんじゃないかという気がします。

### 【G委員】

ずっと表彰の審査をさせていただきながら感じたのは、社会的な課題が多様化してきました。今本当に様々な課題があるので、ただほしいものないですか、あげるものないですかというのではなかなか出ないので、お作りになるときに交通整理をしながら、学生さんの力がほしいとか、いいところにたどり着けるような道筋をされたらいいかなと今考えたところでございます。

### 【C委員】

今のお話しなんですけど、交通整理ってすごくよくわかりました。ホームページのリニューアルの話がありましたけれども、そこに掲載していればみんなそこにたどり着くというのは、多分難しいとっていて、ある程度大枠の、例えば子どもの中で何がしたいと思っているのか、これがしたいという細かいところまではないかもしれないけれども、そういう方にもヒットできるような、そういった作り方をしてもらおうとたどりつきやすいのかもしれないです。最終的には、zoomかなにか、マッチングのときにはしっかり色々話して、マッチングするポイントというのは最初思っていたのと違うところかもしれないけれども、そんなに大きくはずれないと思いますので、そのあたりも加味してもらえるとすごくいいなあと思いながら聞いておりました。

### 【B委員】

学生の話で出ていたんですけど、福大のベンチャー企業論ゼミというのがありまして、そこにソーシャルビジネス委員会が関わっているんですね。前ソーシャルビジネス委員会の委員長の会社には、そのゼミ生がインターンとして入って、今年、入っているんですけど、そういうふうにして学生が育っていく環境があるというのと、その前の委員長は大牟田のまちづくりをやっているんですけど、そこに学生たちが入ってきて、いろんな意見を出してという、そういう仕組み作りがあったりして、そういうゼミとかあれば活用できるのではないかなと思いました。

**【委員長】**

学生と一緒にやるんですよ。そういうことをうまくやる。NPO・ボランティアの役割を先生と一緒にやる。いかがでしょうか。

**【D委員】**

やはり、地域で学ぶというのが広がっている。

**【委員長】**

他に、いかがですか。H委員、いかがですか。

**【H委員】**

今回、新しく事業の見直しをされたということですので、見直しするきっかけがあったと思うんですよね。今回はなぜ、拡大する方に舵を切ったのかなというのが一つ質問としてですが。

事業が大きく三つに分かれている中で、交流機会の創造、皆さんもおっしゃっていたんですけども、これが一番重要だろうなと思うんですよね。もちろん表彰したり、支援していくというのも重要なことでありますけれども。ただそもそも知られていない限り入っていくことはないわけですから、かつ協働っていうのは、今の流行というか、共創という言葉もありますけれど、共にいろいろやっっていこうということがあってしょうけど、そういうコミュニティがない限り、きっかけがない限り一緒にやろうというのはできないわけで、新規にセミナーの開催とかグループワークをやるというのがありますが、イベントとして年に1回やるということではなく、もちろんそれも大事なんでしょうけどいかに息を長く続けられるか、そうなってくると、最初にご説明いただいたコラボステーション福岡の役割は非常に重要なんだろうと思います。私も過去に現場におりましたから、その時に色々、街の方とかいろんな方とお付き合いをさせていただいて、やはり学生さんの力というのは大きいと思うんですよね。学生というのは大きなキーワードで、この人たちをどううまく取り込んでいくか、私が学生の頃とは全然違って、地域共創、協働、みんなで一緒にやっっていくマインドって、我々と違いますね。こういった若い人たちの力をどううまく取り込んでいくかというのが、せっかく作られるコラボステーション福岡にとっても重要なキーじゃないかな。ゼミの活用もあるでしょうし、学生さんが自主的にやっているボランティアサークルもありますから、そこにいかに交流機会を作れるか、私にとってはヒントになるかなと思って聞いておりました。

**【事務局】**

見直しのきっかけについてお答えをさせていただきます。協働実践指針を令和3年度に改訂するなかで、広くご議論いただいた際に、委員の方から、NPOとマイ

ンドを同じくするような、社団法人ですとか、学生サークルですとか、株式会社、みなさん共助社会の実現に向けて活動をしているので、みなさん一緒にやっというメッセージを示してほしいというようなご意見をいただきまして、いろいろな主体が協力して作る共助社会づくりをさらに進める必要があるのではないかとということで、センターのあり方を見直す中で、今回、コラボステーション福岡というかたちで見直すことになりました。

**【委員長】**

学生の話について、副委員長いかがですか。

**【副委員長】**

学生の場合は、どこの大学もそうなんですが、インターンシップを兼ねたり、地域の中で週に1日は丸々どこかの商店街に行って、カレーの売り上げを増やすためにはどうしなければいけないのか考えるとか、課題を与えたり、お店の方から課題を与えてもらったりして、課題解決をしていくというので、共に働きながらやるっていうのが、いろんな大学がいろんなかたちで必修科目化するようになってきているんですね。循環生活研究所さんもそうだと思うんですが、学生のインターンを受け入れていらっしゃるんですよね。NPOでも、かつては、企業か、行政かというのが、インターン受け入れますよというかたちで。NPOも今、ある程度の事業規模に達しているところは受け入れてくれるようになっていて、そういったところが福岡都市圏、北九州都市圏にはあるが、これが久留米あたりになるときつかなというのがあるって、大学が学長権限でお金を出して、このお金でいろんな地域貢献活動しなさいということで、地域、企業とコラボしてやっている。佐世保市で人口25万ですけど、あんまり出ていって活動するNPOそのものがそんなにないという感じのところがあるので、都市部ではもっと積極的に仕掛けをやっていくと面白いのではないかなという感じをうけます。

**【委員長】**

やはり学生さんを使うにしてもお金が要るわけですよ。それを大学である程度面倒見てくれるかどうか。そういうことも一つ、対策としては、大事だと思うんですね。

他にございませんか。ないようであれば、最後に、副委員長に総括をお願いしたいと思います。

**【副委員長】**

本日はどうもありがとうございました。大変勉強になりました。私、1998年の12月にNPO法というのができたんですが、その前は県ボラは春日の方にいられて、そのころに県内のNPOやボランティアの活動実態調査を九経調にいた時に

受託して、その時から何らかのかたちでお付き合いして、今日、基金の話が出ましたけど、この基金というのは、忘れもしない2011年3月11日の午前中に国の方から福岡県に2億円のお金が下りてきて、これを公益活動に使いなさいと、2年以内に使い切ちなさいと、その基金の委員長を私がやって、その日の午後が東日本大震災だったという。その基金はとっくに使い終わっているんですけど、その後は県独自に基金を組まれて、寄附をいただいて、続いている事業です。

今日いろいろご質問いただいて、事務局より私の方が長いので補足をするので、コラステのコーディネーター役ですよ。この辺りをだれか気の利いたのをというのがあるんですが、実はここにいた時から、一応窓口業務、電話に出てもらったりというのがあるんですが、NPOにずっとやっていただいたりするんですが、そもそものご相談事項がすごく多くなっているのがあるんですよ。そういったこともあったりして、ある意味、その点マッチングを図っていくというのは、古賀さんのところのふくおかNPOセンターみたいな中間支援組織のNPOがいくつかありますので、そこががががやっていたらいいんですけど、NPOは結構派閥があって、合う合わないが相当あって、ここはものすごく大きな課題になっている。そういう点ですごく期待しているのが、今年度の事業の一番目の新規の事業で、NPOを主体としたサイトから多様な主体の参画を促進するサイトに刷新していきますと、これにはめちゃくちゃ期待しているんですが、このサイトの認知度を高めていくということと、コンテンツを充実していただく。デジタルトランスフォーメーションから最も遅れている県庁がこういったことをやり始めるということで、大変期待しています。

ふくおか共助社会づくり表彰についてもいくつかご質問ありましたが、十年以上経っているんですが、林田さんと最初からずっと審査委員をやっているんですが、楯が結構高くて、予算の都合があるというのが一時期はありまして、いろんなところから、もっと厳選して、県が表彰するんだから、数を絞ったほうがいいんじゃないかというところで、活動して2年以下のところはもうちょっと実績積んでからにしましょうとか、色々内規みたいなのがあって、基準はちょっとハードルは高くなってきたかなという感じがしています。副賞が楯と表彰状なんですけど、ポスターがあって、表彰式の時なんかは額縁に入れて立てているんですが、中身のポスターはお持ち帰りくださいなんですけど、額縁がついてくると助かるとNPOの皆さんおっしゃっておられて、PRになるんじゃないかなと思っています。

二つ目の交流機会の創出の新規のところですが、ここに決定的に入れてほしいのが、企業とNPO、行政とNPO、一般社団、財団とのNPOの協働、いろんな協働の形があって、企業のCSR部門と他の企業とのコラボでも私は別にいい。その場合は公益活動が第一義ですよ、利益追求第一義の本業とは少し離れたところでやりますよ、だけど間接的には本業の方に繋がっていきますよ、その事業だけは公益的なものでありますよっていうのを維持しなきゃいけないと思うんですが、その時に、協働の対象で、20年見てきて、決定的に少ないのがNPOとNPOの協働な

んです。例えば、ふくおか地域貢献活動サポート事業の基金ニュースの一番最後のページのところに二つ載っているんですが、子どもと家庭と地域の循環事業、カルドキッチンというところがあるんですね。お子さんを集めていろんなお料理を親御さんと一緒にやってもらいながら、食育活動みたいなものを家族でやっていただきましょう、右側の方、私をキャンプに連れてってというので、東峰村で農業体験を子どもたちにしてもらいましょう、こういった案件で上がってきたときには、カルドキッチンでお料理をする子どもたちをキャンプに連れて行って、東峰村で田植えのところから、途中の雑草とり、収穫のところをやってもらって、それをお料理してもらおう。こういったコラボができるので、本当はこういった事業と事業のコラボレーションみたいなもの、今回もつい先週、この後県が決めていきますが、審査会は終わっていますが、本当、この事業とこの事業とこの事業組み合わせたらいいんだけど、その都度、審査委員会ではご本人たちに言ってるし、オンラインでやっているの、寄附者の方々も聞いておられるんですが、なかなか進まなくて。それぞれのNPOが自分のところの事業をやるので手一杯。よそから呼んできて怪我でもされたら。バス代はどっちがどう負担するとか、いろんなことが問題になって。もっともっと、NPOとNPOが協働したら、ものすごいことになっていくんじゃないかなという気がしているので、このマッチングサイトのところにはとても期待しています。

それと、トップランナーの問題が今日出ましたが、課題の共有だけじゃなくて、尖っていくところをどう伸ばすのか。こちらの方も基金ニュースの中でいうと、尖ったのはいくつもあるんですよ。例えば、12ページに車いす陸上選手へのグローブ提供と販売体制の確立、3Dプリンタを使って、障がいを持った方々が、車いすを押すときのグローブが、オーダーメイドなんですね。それをここの団体さんはコラボでやっていきましょう、世界的にも実は注目されている案件で、昨年度が3年目で、北海道大学の先生との共同研究にも発展しているところで、この基金事業が3年が限度なので、それ以上出せませんのでというところで、このあとなんとかパラリンピックでデビューされることを楽しみにしています。次あたり、出てくる可能性がある。ここのグローブを使った車いす競技者が多分出てくるんじゃないかなと。ここはよく県が育てたなというふうに思っているところです。

あと、この中には出てこないの、私の注文を言うと、市町センター、当初すごく少なかったのが増えてきていて、簡単そうで実は難しいんですよ。福岡市や北九州市は専門の部署があつてがんがんやっているんですが、郡の方の町、村になると、関心のある方がいてくださる時はいいんだけど、異動があるので継続できない。よくぞここまで持ってきたなという感じで、この市町の細かいセンターをとりまとめつつ、企業、ボランティア団体、行政、大学と一緒に学んでいける場ができていけば、広がりが出てくるんじゃないかなと思っています。基金の採択事業も福岡市と北九州市にかなり偏りがあつて、京都郡の方からですとか、筑豊とか、県南とか出てくるようになれば、かなり注文を委員の方からつけるようなかたちで、とりあえ

ず1年目やってくださいと、1年経ったら発表会があるので、そこでできているのかどうか言っていて、2年目で継続でと言ってきたときには、そこはどうするのかという話をしたり、販路開拓が弱いからです、B to Cばかりやっていて、企業にまとめてノベルティグッズとして買ってもらうとか、そういった販路開拓の仕方もあるので、一軒一軒、個人に売っていくとか、そればかり考えない方がいい。助言なんか逐次しているところです。ちょっとこの市町センター、是非ここまで積み上げたものをそのままにしておくのはもったいないという気がしますので、是非重点課題に入れておいていただければと思います。

私からは以上です。

#### 【委員長】

大変勉強になりました。いいまとめをいただきました。ありがとうございます。これで、本日の議事がすべて終了しました。

委員の皆さん、長時間にわたり熱心なご討論ありがとうございました。

それでは、議事進行について事務局へお返しします。

#### 【進行役】

委員長、どうもありがとうございました。

委員の皆様におかれましても、活発なご意見、ご議論をいただきまして、ありがとうございました。

最後に主催者を代表しまして、社会活動推進課長の浦田から、一言御挨拶をさせていただきます。

#### 【事務局】

本日は、お忙しいところ、ご参加いただき、皆様から貴重なご意見をいただきました。誠にありがとうございました。

会議の中で、色々いただきましたご意見につきましては、特に県としてやれること、マッチング機能をどう広げていくとか、交流機会の創出ですとか、そういったところをしっかり受け止めまして、今後の活動に活かしていきたいと思っております。

また、委員の皆様におかれましては、本会議の委員の任期が今年の8月29日までとなっております。

差し支えなければ、引き続き、私共としては、再任をお願いして、色々ご意見をいただきたいと考えておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

今後とも、皆様のご支援のほど、よろしく願い致します。

本日は、どうもありがとうございました。

#### 【進行役】

それでは、これもちまして本日の実践会議を終了させていただきます。

なお、議事録を作成いたしまして、委員の皆さまにはおってお送りさせていただきますので、各自、委員の皆様の方で御確認のほど、よろしく願いいたします。

皆様、本日は誠にありがとうございました。